

# DanDan Vol.35

ちよっと探訪⑩ Chiyotto Tanbou

吉野屋商店 [よしのやしうてん]

「ちよっと探訪」では、知る人ぞ知るちよだの魅力に迫ります。第10回は、伝統のあかりを守り続ける吉野屋商店を紹介します。



▲アニメと歌舞伎が大好きだという由衣子さん  
◀ころろ安らくあかりに包まれるギャラリー  
(現在、一般公開されていない)

お店に足を踏み入ると暖かな光が私たちを迎えてくれた。1854年(安政元年)創業以来、秋葉原駅から徒歩で提灯問屋の商いを続けている。力強い「江戸文字」が印象的な大小さまざまな提灯が、そこかしこに並ぶ。2023年4月には、「江戸手描提灯文字入れ」で千代田区指定無形文化財の認定を受けた。高校卒業後すぐに提灯の世界に入った手描き職人の内川さんによると、文字は一筆描きではないが、下描きは一切しないという。遠くからでもはっきりと見え、下から見上げた時に美しく読みやすいバランスで描くのだそう。区内では、神田祭はもちろんのこと、靖国神社のみたままつりにも約1万灯の提灯を卸しており、中央区の



▲今もなお技を磨き続ける職人さん

歌舞伎座の地下にある高さ2.7mの大提灯も吉野屋の仕事だ。また、個人でも注文できるため、結婚式の記念や、海外への贈答品としてのリクエストも多い。「江戸文字」に限らず、複雑なロゴや細かい文字などの注文にも柔軟に対応できる職人技の幅の広さも、人気の理由のひとつだろう。

江戸文学に造詣が深く、最近、三味線も習い始めたという広報の吉野由衣子さんは、現代の生活様式に寄り添う提灯のあり方を追求し、粋でいなせな江戸文化に現代の感性を織り交ぜた新しいあかりも提案している。アニメや若いアーティストとのコラボ商品の開発にも力を注ぐ一方、各地で学生対象の提灯絵付けのワークショップも定期的に開催している。子どもたちの自由な発想の作品に刺激を受け、教えることで、自身も学ぶことが多いと語る。唯一無二の技を受け継ぎ、伝統のあかりを灯し続けてくださることを願ってやまない。

INFO 吉野屋商店 〒101-0025 千代田区神田佐久間町2-13 ☎03-3866-2935 <http://www.e-yoshinoya.jp/>

〈編集後記/遠藤〉今回、(元)鶴谷洋服店さん、吉野屋商店さん取材させていただき、共通していると感じたことは「伝統の継承」と「新たな挑戦」でした。古き良き建物や素材、技術を大切にしながらも、担い手となった人の視点で時代に沿った新しい道を紡いでいく。「学び」「思考」「継承」のサイクルが、「文化」を形づくっていると実感しました。今年度のテーマに沿って、ページをめくると千代田区内の素敵な文化に出会えるような記事を目指してまいりますので、次号もぜひお手に取っていただけますと幸いです。

### DanDan 読者アンケート

皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。アンケートフォームよりご回答いただき、九段生涯学習館1階受付でメール画面をご提示いただいた方には当館オリジナルグッズをプレゼントいたします。

※先着順/なくなり次第配布終了となります



## Culture Door

～文化のトビラ～

世界には、人類の営みの成果である「文化」が数多く存在しています。先人が築いた文化に触れる行為は、未知との出会いにつながるトビラを開く鍵ともいえるかもしれません。きっとその出会いは「学び」となって人生をより豊かなものにし、また新たなトビラへアクセスするきっかけとなるでしょう。今年度は「文化のトビラ」をテーマに、千代田区内で生き続けるさまざまな文化へいざないます。

### 「懐かしい」と「新しい」が同居した、ココロすぐる雑貨店



▲かつての店名が残る看板建築

### TSURUYA (元)鶴谷洋服店

今年度1回目の特集は、テレビ番組やWebコラムなどのメディアで取り上げられた、知る人ぞ知る神保町の雑貨店「(元)鶴谷洋服店」。歴史的な建造物である看板建築の店舗を引き継ぎ、その特徴を活かした店構えで通りがかる人を引き寄せます。国内外、老若男女を問わず多くの人々がこの店を訪れるそう。古き良き文化を守りながらも、独自の視点でバラエティに富んだ商品を展開する「唯一無二」なスタイルへ出会いに、そのトビラをノックしました。

### 雑貨と古本の店 元 鶴谷洋服店

古いもの 新しいもの 作ったもの

FORMER TAILOR TSURUYA / KANDA・TOKYO

〒101-0051 千代田区神田神保町1-3 [営業日]金・土・日曜・祝日 14:00～18:00  
[オンラインショップ] <https://tsuruya-online-shop.stores.jp/>

「懐かしい」と「新しい」が同居した、ココロすぐる雑貨店「(元)鶴谷洋服店」

洋服店当時のテーラー生地に見立てたミニチュアに、三代目へのリスペクトを感じる



元は、神保町で三代続いたテーラー店であり、今はその三代目の姪である岩船さんがこの店のオーナーです。生涯現役を貫いた伯父さまの外界により2010年に店仕舞いしましたが、建物維持のために何かできないかと考え、雑貨店として2011年に再びシャッターを開けました。(元)を小さくつけたのみの店名について、「伯父にも伯母にも怒られると思う」と微笑みながら語る岩船さん。その言葉には亡きご親族への温かな想いが宿っています。

店内は、昭和レトロを感じるものから個性派アーティストの商品まで、誰もが思わず「お！」と声を漏らしてしまうような雑貨で溢れています。仕入れ商品のほか、テーラー店の名残として、三代目が遺した上質なテーラー生地のオリジナル雑貨製作を手掛けています。なかでも、持った人がまるでジャケットを羽織ったかのようなデザインの「持つジャケ」シリーズは、(元)仕立屋ならではのアイデア商品です。また、アーティストとコラボした斬新なグッズの開発にも尽力しています。70年代頃から渋谷・原宿で人気を博し、2015年に惜しまれつつ閉店した“文化屋雑貨店”の商品を現在も取り扱う数少ない店もあり、創業者の長谷川義太郎さんお手製の商品が陳列されています。遊び心に富んだラインアップですが「こだわりというよりは、無理せず、できる範囲のことをやっている」とのこと。それが十分に個性的なものですから、人々の注目が集まるのも納得できます。取材中も、開店前にもかかわらず、ガラス張りのファサードから見えるにぎやかな品々に目を引かれ、足を止めて覗いている人が何人もいらっしゃいました。

CULTURE DOOR

CULTURE DOOR



「持つジャケ」シリーズがまろポンシマ



イラストレーター「吉岡里奈」氏とのコラボ商品「食ペタイ」シリーズ

三代目は生涯仕立てのスペシャリストであるために、「学び」の精神をもち続けていました。また、三代目の奥様はペン習字やコーラスなどを習うため、九段生涯学習館を利用していたといいます。当時のお稽古記録を丁寧に保管されていたことから、学習活動を重要視されていた様子や、物を大切に作る姿勢が伝わってきました。そして時代の変化に抵抗感がある人も少なくないなか、その変化をも楽しむお人柄だったとのこと。「学び」に積極的なご親族の姿を見てきた岩船さんご夫妻も、物事を大らかに見つめられる方々です。向上心を持ち、時代の変化を受け入れる柔軟性が、店内の品揃えにも表れているようでした。

KYOKANDATAO



あちらこちらへと目移りしてしまう品揃え

岩船さんは千代田区や神保町に対し「古い店舗での営業をずっと続けさせてくれてありがとうございます」と感謝の想いを述べられています。老朽化による建て替えや再開発などで、少しずつ街並みが変わっていき神保町。その一角に佇む築96年の店舗で、楽しい品物をたくさん揃えて待っています。本の街神保町で、ココロすぐる雑貨店のトビラを開きに足を運んでみてはいかがでしょうか。

RTAILORFORM

L.L.News 1

九段フェス2024-Culture Travel- アフターレポート

2024.3.23[土]・24[日] @九段生涯学習館



①生け花とハワイアンキルト

②完成した匂い袋、全作品集合!



③大人気だった竹製ピタゴラ装置

④観客を巻き込んでの太極拳



④2日間の大トリは「ソーラン節」

①ギャラリー展示 | 2023年度に九段生涯学習館で取り組んだ事業を、ポスターでご紹介。区民自主企画運営講座を実施したサークルの作品展示も行いました。また、エントランスでは当館で活動するサークルの紹介スライドショーを上映。こちらは、現在も当館エントランスや公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。

②ミニ講座 | 2日間を通して、ICTリテラシー、フラワーアレンジメント、ヨガなどのミニ講座を開催しました。クラフト系のワークショップでは、全員の作品を集めて記念撮影をしたり、お互いの作品を見せ合ったりして、皆さま素敵なおみやげと思い出を持ち帰られたことでしょう。

③ミニイベント | 2日目には、薪割り体験と竹製ピタゴラ装置のコーナーを設置しました。屋外で実施していた薪割りが目に入り、お立ち寄りいただく方が多くいらっしゃいました。エントランスに設置したピタゴラ装置では、年齢層もさまざまなおさま同士で盛り上がる姿に、周りの大人も思わず笑顔になりました。

④舞台発表 | 当館で活動するサークルが日ごろの成果を発表。合唱、楽器演奏、ダンスなどバリエーション豊富なラインアップで盛り上がりました。印象的だったのは、観客巻き込み型のパフォーマンスがいくつかあったこと。合唱のウォーミングアップや太極拳の型を、観客の皆さまと一緒に体験されていました。

九段生涯学習館公式YouTubeチャンネル | 当日会場に来られなかった方やもう一度ご覧になりたい方のために、2日間の舞台発表のアーカイブを公開しています。参加サークルも増えてパワーアップした九段フェスの熱気を、ぜひご覧ください。



L.L.News 2

教養講座レポート「受け継がれてきた山王祭の変遷を歩く」

2024.5.25[土] @九段生涯学習館



5月25日[土]初夏の陽ざしのもと、教養講座「受け継がれてきた山王祭の変遷を歩く」が行われました。山王祭の正式名称は“日枝神社大祭”で、神田祭、深川八幡宮例大祭と並び江戸三大祭のひとつで、徳川三代将軍家光以降、歴代の将軍が上覧したことから天下祭とも呼ばれます。当日は、立教大学滝口特任准教授による2時間のレクチャーのあと、麴町1丁目から1時間強のまち歩きスタート。1864年の古地図を手に、半蔵門、麴町太田姫稲荷神社、平河天満宮などのスポットで先生の解説を聞きながら歩き、急な男坂を上って無事に日枝神社にたどり着きました。今年は6年ぶりの神幸祭で、東京で最も広い氏子地域を王朝装束に身を包んだ行列や山車が練り歩きました。皆さまにとっては、例年とは違った景色が広がる山王祭を体験できたことでしょう。

